

日本土壌微生物学会 2016 年度大会のお知らせ

日時	2016 年 6 月 11 日 (土)	9:00~	受付開始
		10:00~11:45	一般講演 (口頭発表 I)
		13:00~15:45	学会シンポジウム
		15:50~16:50	ポスター発表 I (奇数番号)
		16:50~17:50	ポスター発表 II (偶数番号)
		18:00~20:00	情報交換会
	6 月 12 日 (日)	10:00~12:00	一般講演 (口頭発表 II)
		13:00~14:00	総会 (ポスター賞授与)
		14:15~16:15	市民公開シンポジウム

場所 岐阜大学 全学共通教育講義棟 (〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)
・多目的ホール (口頭発表、学会・市民公開シンポジウム、総会)
・コモンズ 1A、1B (ポスター発表)
・生協第 2 食堂 (情報交換会)

交通 JR/名鉄名古屋駅から JR/名鉄岐阜駅までは約 20~30 分です。JR/名鉄岐阜駅から岐阜大学までは岐阜バス (系統 C70 で約 30 分、系統 N45 で約 35 分) またはタクシーでお越しください。

学会シンポジウム「微生物集団機能解析に向けて—非培養法と培養法の可能性—」

- | | |
|---|-------------|
| 1. イネ有機育苗培土における微生物叢のロバストネスと苗病害抑制現象 | 高橋英樹 (東北大) |
| 2. 微生物生態系の理解 (解析と制御) に向けた挑戦
—微生物を用いた環境浄化の取組みを緒として— | 二又裕之 (静岡大) |
| 3. 微生物の培養法の限界とその打破を目指して | 鎌形洋一 (産総研) |
| 4. 土壌プロテオミクスから考える微生物生態系機能 | 笠原康裕 (北海道大) |

市民公開シンポジウム「知られざる微生物のちから。環境の保全や修復に役立つ微生物たち」

- | | |
|--|--------------|
| 1. 海岸松林を支える樹木共生微生物 | 松田陽介 (三重大) |
| 2. 微生物による原位置環境汚染修復 (バイオレメディエーション) の実際
—テトラクロロエチレン類及び灯油汚染サイトの修復— | 高見澤一裕 (元岐阜大) |
| 3. 役立つ環境微生物—毒物分解と放射性物質汚染バイオマスの減容化— | 金原和秀 (静岡大) |

参加費

事前参加申込の場合は、5 月 27 日 (金) までに、件名に「2016 大会参加」、本文に情報交換会参加の有無と、氏名、所属、住所、連絡先 (Tel、Fax、電子メールアドレス等) を付した電子メールを大会事務局 (dobi2016@green.gifu-u.ac.jp) 宛に送信し、参加申込を行って下さい。

- 大会参加費 (講演要旨集を含む)
 - 事前振込 (5 月 27 日まで): 会員 5,000 円 (非会員 7,000 円)、学生 (会員、非会員共) 3,000 円
 - 5 月 28 日以降振込または当日支払: 会員 6,000 円 (非会員 8,000 円)、学生 (会員、非会員共) 4,000 円
- 講演要旨集のみ購入: 1 部 2,000 円
- 情報交換会費
 - 事前振込 (5 月 27 日まで): 会員・非会員 4,000 円、学生 2,000 円
 - 5 月 28 日以降振込あるいは当日支払: 会員・非会員 5,000 円、学生 3,000 円
- 会誌に同封の振込票に必要事項を記入の上、下記振込口座にお振込みください。振込の場合、念のため振込票半券を当日ご持参ください。
郵便振替口座 口座番号 00860-6-153491、口座名称「日本土壌微生物学会 2016 年大会運営委員」
なお、他行等からの振込みの場合は、店名 (店番) ○八九 (ゼロハチキュウ) 店 (089)、預金種目: 当座、口座番号 0153491 とご指定下さい。

昼食 6 月 11 日 (土) は生協食堂が営業しています。12 日 (日) は生協食堂が休みとなりますが、大学内にコンビニエンスストアがございますし、大学近くには飲食店がございますので、そちらをご利用ください。

宿泊 岐阜駅周辺にホテルが複数ございますので、各自でご予約ください。

託児サービス ご希望の方には、JR 岐阜駅前の民間保育所 (有料) を紹介いたします。利用者には大会より補助いたします。託児を依頼する関係上、ご希望の方は 4 月 27 日 (水) までに大会事務局にご連絡ください。

大会事務局 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学応用生物科学部 植物病理学研究室 清水将文
電話: 058-293-2847 ファックス: 058-293-2847 Eメール: dobi2016@green.gifu-u.ac.jp

日本土壌微生物学会 2016 年度大会プログラム

2016 年 6 月 11 日 (土)

受付開始 9:00~

開会挨拶 9:55~10:00

■ 一般講演 (口頭発表 I) 10:00~11:45

O-1	10:00-10:15	幼苗検定—最確値法による土壌病原菌の感染源ポテンシャル単位 (IPU) の推定 ○宍戸雅宏 ¹ ・本多悠一 ¹ ・國友映理子 ² ・横山とも子 ² ・牛尾進吾 ² (1 千葉大学大学院園芸学研究科、2 千葉県農林総合研究センター)
O-2	10:15-10:30	温水処理による白紋羽病菌衰退現象における土壌微生物機能解析法の構築：安定同位体イメージング法 ○久我ゆかり ¹ ・山田博之 ¹ ・田代智子 ¹ ・勝山千恵 ¹ ・中村仁 ² ・坂本直哉 ³ ・塚本尚義 ⁴ (1 広島大学大学院総合科学研究科、2 農研機構果樹研究所、3 北海道大学創成科学共同研究機構、4 北海道大学理学院)
O-3	10:30-10:45	ジャガイモ根圏からの共生微生物の分離及び小規模室内実験系を中心にした有用微生物候補菌株の選抜 ○金澤恵 ¹ ・石川美友紀 ¹ ・三星暢公 ¹ ・紀岡雄三 ¹ ・野口勝憲 ¹ ・福吉賢三 ² ・富濱毅 ³ ・白尾吏 ³ ・森清文 ⁴ ・岡崎和之 ⁵ ・池田成志 ⁵ (1 片倉コープアグリ株式会社、2 長崎県農林技術開発センター、3 鹿児島県農業開発総合センター、4 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場、5 北海道農業研究センター)
O-4	10:45-11:00	レタスビッグベイン病の防除技術と土壌ウイルス濃度の関係について ○松浦克成 ¹ ・岩本豊 ¹ ・西口真嗣 ¹ ・相野公孝 ¹ ・田中正 ² (1 兵庫県立農林水産技術総合センター、2 ジェイカムアグリ (株) 肥料研究所)
O-5	11:00-11:15	pH 降下型肥料が <i>Olpidium virulentus</i> の感染に及ぼす影響 ○岩本豊 ¹ ・松浦克成 ¹ ・西口真嗣 ¹ ・相野公孝 ¹ ・田中正 ² (1 兵庫県立農林水産技術総合センター、2 ジェイカムアグリ (株) 肥料研究所)
O-6	11:15-11:30	連続 2 作どり秋冬レタスにおける pH 降下型肥料の開発とレタスビッグベイン病軽減効果について ○西口真嗣 ¹ ・岩本豊 ¹ ・松浦克成 ¹ ・相野公孝 ¹ ・田中正 ² (1 兵庫県立農林水産技術総合センター、2 ジェイカムアグリ (株) 肥料研究所)
O-7	11:30-11:45	Bioaccumulation of radioactive cesium by <i>Brassica juncea</i> : influence of inoculation with potassium solubilizing bacteria ○Salem Djedidi・Katsuhiko Kojima・Naoko Ohkama-Ohtsu・Sonoko Dorothea Bellingrath-Kimura・Tadashi Yokoyama (Tokyo University of Agriculture and Technology)

■ 学会シンポジウム 13:00~15:45

『微生物集団機能解析に向けて—非培養法と培養法の可能性—』

S-1	13:00-13:40	イネ有機育苗培土における微生物叢のロバストネスと苗病害抑制現象	高橋英樹 (東北大学)
S-2	13:40-14:20	微生物生態系の理解 (解析と制御) に向けた挑戦 —微生物を用いた環境浄化の取組みを緒として—	二又裕之 (静岡大学)
	14:20-14:25	休憩	
S-3	14:25-15:05	微生物の培養法の限界とその打破を目指して	鎌形洋一 (産業技術総合研究所)
S-4	15:05-15:45	土壌プロテオミクスから考える微生物生態系機能	笠原康裕 (北海道大学)

■ ポスター発表 I (奇数番号) 15:50~16:50

■ ポスター発表 II (偶数番号) 16:50~17:50

■ 情報交換会 18:00~20:00 (岐阜大学生協第2食堂)

2016年6月12日(日)

■ 一般講演(口頭発表Ⅱ) 10:00~12:00

O-8	10:00-10:15	有用ダイズ根粒菌 <i>Bradyrhizobium diazoefficiens</i> USDA110 型菌株におけるゲノム構造の多様性 ○板倉学 ^{1,2} ・三屋公佑 ¹ ・金原一真 ¹ ・菅原雅之 ¹ ・金子貴一 ³ ・南澤究 ¹ (¹ 東北大学大学院生命科学科学研究科、 ² 京都産業大学生態進化発生学研究センター、 ³ 京都産業大学総合生命科学部)
O-9	10:15-10:30	Differences in the denitrification pathway between <i>Bradyrhizobium diazoefficiens</i> and <i>Bradyrhizobium japonicum</i> under strictly anaerobic conditions ○Arthur F. Siqueira・Cristina Sánchez・Manabu Itakura・Kiwamu Minamisawa (Graduate School of Life Sciences, Tohoku University)
O-10	10:30-10:45	メタゲノム解析によるダイズ <i>Methylobacterium</i> 属細菌のメチルアミン・ウレイド代謝の発見 南智之 ¹ ・按田瑞恵 ¹ ・三井久幸 ¹ ・菅原雅之 ¹ ・金子貴一 ² ・佐藤修正 ^{1,2} ・池田成志 ¹ ・○南澤究 ¹ (¹ 東北大学大学院生命科学科学研究科、 ² かずさDNA研究所)
O-11	10:45-11:00	リン可給性をめぐる微生物群集の応答 ○美世一守 ¹ ・丸山るな ² ・諸人誌 ² ・伊藤英臣 ³ ・磯部一夫 ¹ ・國頭恭 ² ・大塚重人 ¹ ・妹尾啓史 ¹ (¹ 東大院・農、 ² 信大・理、 ³ 産総研)
O-12	11:00-11:15	不耕起栽培畑地土壌における耐水性団粒内の微生物群集構造解析 ○中根麻苅美 ¹ ・零田麻衣 ¹ ・西澤智康 ¹ ・小松崎将一 ¹ ・橋本知義 ² ・太田寛行 ¹ (¹ 茨城大学農学部、 ² 農研機構中央農業研究センター)
O-13	11:15-11:30	太陽熱土壌消毒が土壌微生物群集に及ぼす影響の eDNA 解析による評価 ○大島崇彰 ¹ ・篠原陽子 ² ・山野明日夏 ¹ ・前坂昌宏 ³ ・横江和典 ¹ ・山縣実奈 ¹ ・橋本知義 ⁴ ・村瀬潤 ³ ・浅川晋 ³ (¹ 名古屋大・農、 ² 宮崎総農試、 ³ 名古屋大・院・生命農、 ⁴ 中央農研)
O-14	11:30-11:45	水田土壌における異化的硝酸還元:制御と微生物群集 ○磯部一夫 ¹ ・野尻陽介 ¹ ・金子由佳 ¹ ・畔上洋一 ¹ ・白鳥豊 ² ・大塚重人 ¹ ・妹尾啓史 ¹ (¹ 東大・農、 ² 新潟農総研)
O-15	11:45-12:00	京都府内黒ダイズ栽培圃場における根圏微生物の特性 ○小野愛 ¹ ・木村重光 ¹ ・堀祐輔 ¹ ・杉山暁史 ² (¹ 京都府農林水産技術センター生物資源研究センター、 ² 京都大学生存圏研究所)

■ 総会・ポスター賞授与式 13:00~14:00

■ 市民公開シンポジウム 14:15~16:15

『知られざる微生物のちから。環境の保全や修復に役立つ微生物たち』

C-1	14:15-14:55	海岸松林を支える樹木共生微生物	松田陽介(三重大学)
C-2	14:55-15:35	微生物による原位置環境汚染修復(バイオレメディエーション)の実際ーテトラクロロエチレン類及び灯油汚染サイトの修復ー	高見澤一裕(元岐阜大学)
C-3	15:35-16:15	役立つ環境微生物ー毒物分解と放射性物質汚染バイオマスの減容化ー	金原和秀(静岡大学)

大会事務局からの連絡事項

■ 口頭発表の方

- ・ 講演時間は12分、質疑3分をお願いします。
- ・ ご自身のPCをご使用頂きます。PCを立ち上げた状態で、次演者席にてお待ち下さい。
- ・ PCをお持ちでない場合、Power Point ファイルをUSBメモリに入れ、講演30分前までに大会受付にお渡し下さい。なお、USBメモリでファイルを提出される場合は、事前にウイルスチェックをお願いします。

■ ポスター発表の方

- ・ ポスターは120(タテ)×90(ヨコ) cm以内で作成願います。なお、掲示用の画紙等は会場に用意いたします。
- ・ ポスターは6月11日(土)9:00~10:00に掲示、6月12日(日)12:00までに撤去して下さい。
- ・ 奇数・偶数番号の各発表時間に、ポスター前で説明をお願いします。
- ・ すべてのポスター発表が優秀ポスター賞の対象となります。
- ・ 優秀ポスター賞の受賞者には、6月12日(日)13:00からの総会で賞状を授与いたします。

大会最新情報は、ホームページ(<http://jssm.sakura.ne.jp/>)でお知らせします。

一般講演（ポスター発表）プログラム

2016年6月11日(土)

- 15:50~16:50 ポスター発表Ⅰ（奇数番号）
- 16:50~17:50 ポスター発表Ⅱ（偶数番号）

ポスターは6月11日(土)9:00~10:00に掲示、6月12日(日)12:00までに撤去して下さい。

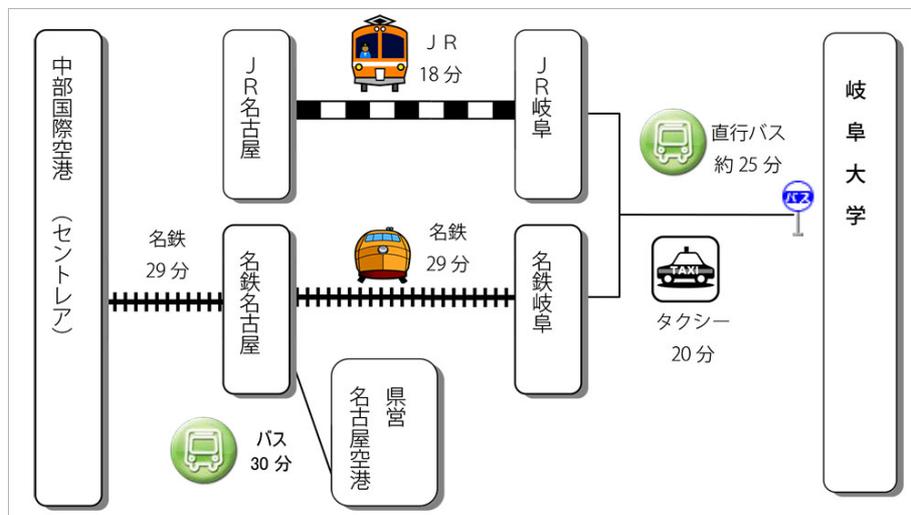
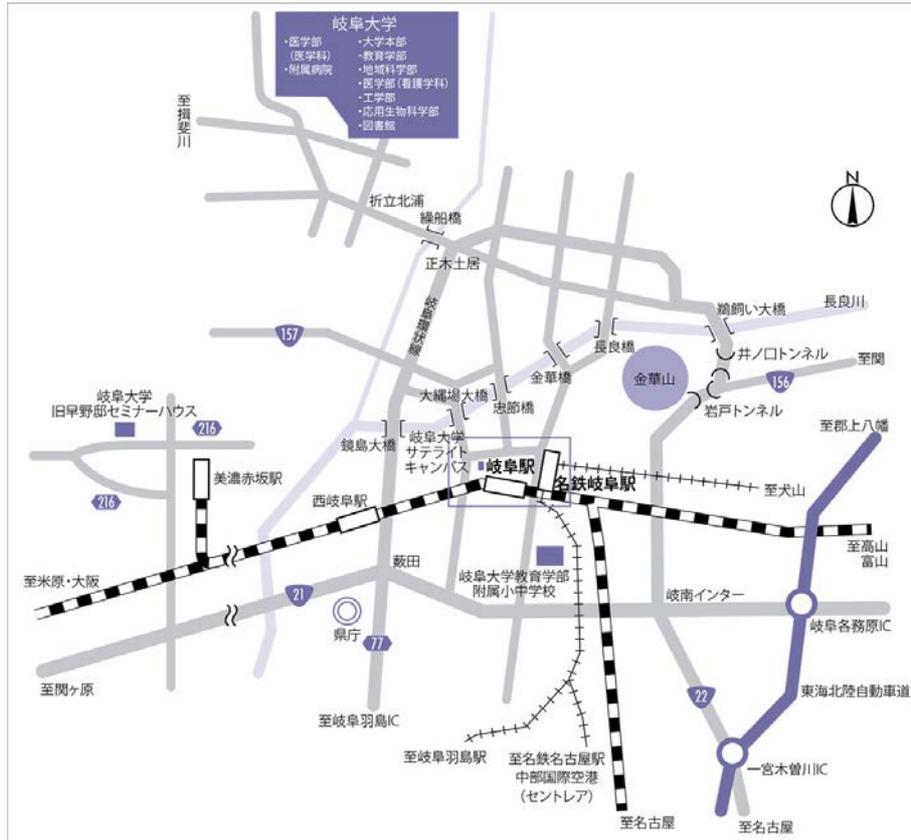
P-1	レタスパーティシリウム萎凋病に対するキタネグサレセンチュウの影響 ○須田美穂 ¹ ・伊藤瑞穂 ² ・渡辺賢太 ³ ・宇佐見俊行 ¹ (¹ 千葉大学大学院園芸学研究所、 ² 株式会社GRA、 ³ 茨城県農業総合センター園芸研究所)
P-2	酵母細胞壁含有資材(CW2)による土壌還元消毒の効果 第1報 <i>Fusarium</i> 菌、 <i>Ralstonia</i> 菌に対する評価 ○白井建史 ¹ ・門馬法明 ² ・安原貴臣 ¹ (¹ アサヒグループホールディングス株式会社 豊かさ創造研究所、 ² 公益財団法人 園芸植物育種研究所)
P-3	酵母細胞壁含有資材(CW2)による土壌還元消毒の効果 第2報 発病抑止性と糸状菌群集構造の評価 ○門馬法明 ¹ ・白井健史 ² ・安原貴臣 ² (¹ 公益財団法人 園芸植物育種研究所、 ² アサヒグループホールディングス株式会社 豊かさ創造研究所)
P-4	コロニー形成曲線(CFC)から見る土壌細菌集団の動態 ○服部黎子・服部勉(アチックラボ)
P-5	<i>Burkholderia multivorans</i> ATCC17616 株の芳香族化合物トランスポーター遺伝子群の発現の解析 ○小川直人・秦博則・町田俊太郎・本田悦爾・戸倉由貴(静岡大学農学部)
P-6	アブラナ科ネコブ病に対するCDU施肥の影響とCDU分解菌の接種効果 ○中村春香 ¹ ・坂本 淳 ² ・横山和平 ¹ (¹ 山口大学院、 ² ジェイカムアグリ株式会社)
P-7	稲わら堆肥の長期連用および連用後の中断が水田土壌の土壌微生物群集構造に与える影響 ○大峽広智・本間利光・土田徹(新潟農総研)
P-8	糸状菌に内生する細菌の系統と相互作用に関する考察 ○太田寛行 ¹ ・佐藤嘉則 ² ・西澤智康 ¹ ・成澤才彦 ¹ (¹ 茨城大学農学部、 ² 東京文化財研究所)
P-9	異なる土壌型における土壌酵素活性とリン利用性の関係 ○藤田一輝 ¹ ・國頭 恭 ¹ ・諸人誌 ² ・大塚重人 ³ ・長岡一成 ⁴ (¹ 信州大学理学部、 ² 長野県上小農業改良普及センター、 ³ 東京大学大学院農学生命科学研究科、 ⁴ 中央農業総合研究センター)
P-10	安定同位体を用いた長期有機栽培水田土壌における窒素固定と脱窒の同時測定 ○程為国 ¹ ・佐々木祐太 ¹ ・鳥山和伸 ² ・俵谷圭太郎 ¹ ・小林和彦 ³ (¹ 山形大・農、 ² JIRCAS、 ³ 東大・農)
P-11	韓国の有機栽培土壌の理化学性および微生物性に関する研究 ○朴光来 ¹ ・須賀有子 ² ・洪承吉 ¹ ・李チョロン ¹ ・安敏實 ¹ ・金錫哲 ¹ ・橋本知義 ² (¹ 韓国農村振興庁国立農業科学院農業環境部有機農業科、 ² 日本農研機構中央農業研究センター)
P-12	ジャガイモ栽培圃場における土壌及び放置残渣の糸状菌相メタゲノム解析 ○星野(高田)裕子 ¹ ・秋山博子 ¹ ・中島泰弘 ¹ ・山本昭徳 ² (¹ 特定研究開発法人 農業環境技術研究所、 ² 東京学芸大)
P-13	果樹園土壌の白紋羽病抑止性を向上させる資材の加温条件下での選抜 ○高橋真秀 ¹ ・蔦木康徳 ¹ ・鐘ヶ江良彦 ¹ ・中村仁 ² (¹ 千葉農林総研、 ² 農研機構果樹研)
P-14	<i>Mortierella</i> 属糸状菌に内生する細菌の多様性解析 生田目光 ¹ ・高島勇介 ¹ ・佐藤嘉則 ² ・西澤智康 ¹ ・成澤才彦 ¹ ・太田寛行 ¹ (¹ 茨城大学農学部、 ² 東京文化財研究所)
P-15	生態系における土壌微生物の新機能:土壌微生物が斑点米カメムシを育む ○伊藤英臣・菊池義智(産業技術総合研究所)
P-16	阿蘇地域で生産される野草堆肥の微生物学的特性および拮抗菌検出法の検討 ○龍田典子・阿部紘乃・居石優子・上野大介・染谷孝(佐賀大・農)
P-17	トマト内における蛍光標識した青枯病菌の挙動観察 ○中原浩貴 ¹ ・小松亜璃沙 ¹ ・松崎弘美 ¹ ・森 太郎 ² ・松添直隆 ¹ (¹ 熊本県立大学院環境共生学研究所、 ² 滋賀大学教育学部)
P-18	植物体から分離したセルロース分解-窒素固定機能を持つ細菌群の解析 ○川内智裕 ¹ ・池永誠 ² ・境雅夫 ² (¹ 鹿児島大学連合農学研究科、 ² 鹿児島大学農学部)

P-19	Genome analysis of a DSE-commensal bacterium <i>Rhizobium</i> sp. Y9 associated with <i>Veronaeopsis simplex</i> Y34 ○Yong Guo (郭永)・Yuuto Matsuoka・Tomoyasu Nishizawa・Hiroyuki Ohta・Kazuhiko Narisawa (Ibaraki Univ. College of Agri.)
P-20	定量 PCR 等を用いた還元消毒過程における土壌微生物相の動態解析 ○堀田光生 ¹ ・北本宏子 ¹ ・小原裕三 ¹ ・門馬法明 ² (¹ 国立研究開発法人農業環境技術研究所、 ² 公益財団法人園芸植物育種研究所)
P-21	植物と高親和性水素酸化放線菌の共生関係 ～大気中の水素は植物共生に寄与するのか～ ○菅野学・玉木秀幸・加藤創一郎・鎌形洋一(国立開発法人産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門)
P-22	感染単位 (IU) 密度を指標とした菌根菌のサイズへの感染予測 ○大友量・森本晶・小八重善裕・岡紀邦(農研機構北海道農業研究センター)
P-23	2種の土壌くん蒸剤が土壌病害虫および一般微生物に与える影響の比較 ○兒山裕貴・豊田剛己(東京農工大学大学院 BASE)
P-24	培地中の K/Cs モル比の違いが3種の菌類の栄養菌糸の成長とCsの吸収様式に及ぼす影響 遠藤飛鳥 ¹ ・○立石貴浩 ² ・石川奈緒 ³ ・工藤洋晃 ⁴ ・颯田尚哉 ² ・築城幹典 ² (¹ 岩手大学大学院農学研究科、 ² 岩手大学農学部、 ³ 岩手大学工学部 ⁴ 岩手大学三陸復興推進機構)
P-25	水田からのメタン発生量の増減に伴う土壌生物相の変化 ○酒井順子 ¹ ・常田岳志 ¹ ・林健太郎 ¹ ・片柳薫子 ¹ ・臼井靖浩 ² ・中村浩史 ³ ・酒井英光 ¹ ・長谷川利拓 ¹ (¹ 農環研、 ² 農研機構北農セ、 ³ 太陽計測(株))
P-26	有機物資材の長期施用が畑土壌の病害抑止性と微生物群集に及ぼす影響 ○村瀬潤・田原保樹・日置真優・西内俊策・北野英己・柘植尚志(名古屋大学)
P-27	水田土壌の硫酸還元菌の群集構造解析 水野かすみ ¹ ・平松雅代 ² ・内田利治 ³ ・齋藤雅人 ⁴ ・西田瑞彦 ⁵ ・関矢博幸 ⁵ ・加藤直人 ⁶ ・土屋一成 ⁷ ・浅川晋 ¹ ・ ○渡邊健史 ¹ (¹ 名古屋大院生命科学、 ² 元名古屋大農、 ³ 元愛知農総試、 ⁴ 青森産技セ、 ⁵ 東北農研、 ⁶ 中央農研、 ⁷ 元東北農研)
P-28	水田土壌に優占する <i>Deltaproteobacteria</i> の窒素固定・脱窒・DNRA への寄与ーオミクス解析による水田窒素循環微生物コミュニティの刷新ー ○田伏曜子・伊藤英臣・白鳥豊・磯部一夫・大塚重人・妹尾啓史(東京大学大学院農学生命科学研究科)
P-29	森林土壌における化学抽出法および生物学的評価法による土壌養分利用性の評価 ○諸人誌 ¹ ・國頭恭 ² ・宮原裕一 ² ・長岡一成 ³ ・大塚重人 ⁴ (¹ 信州大理、現長野県上小農業改良普及センター、 ² 信州大理、 ³ 中央農研、 ⁴ 東京大院農学生命)
P-30	有機 JAS 認定圃場における鶏糞施用の増減が土壌の理化学性と酵素活性に及ぼす影響 ○唐澤敏彦 ¹ ・矢口直輝 ² ・須賀有子 ¹ ・浦嶋泰文 ¹ ・橋本知義 ¹ (¹ 中央農研、 ² 長野県野菜花き試)
P-31	Bacterial community structure in tea rhizosphere and plant growth-promoting traits of <i>Bacillus</i> isolates ○Nusrat Ahsan ¹ ・Hiroyuki Koyama ¹ ・Haruhisa Suga ² ・Takashi Ikka ³ ・Masafumi Shimizu ¹ (¹ Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University、 ² Life Science Research Center, Gifu University、 ³ Faculty of Agriculture, Shizuoka University)
P-32	<i>Flavobacterium</i> 及び <i>Chryseobacterium</i> の PGPR 特性の評価 ○水谷文哉 ¹ ・西岡友樹 ¹ ・須賀晴久 ² ・景山幸二 ³ ・清水将文 ¹ (¹ 岐阜大応生、 ² 岐阜大生命セ、 ³ 岐阜大流園セ)
P-33	土壌中のキチン分解酵素活性と微生物に対する N-アセチルグルコサミンと N,N'-ジアセチルキトビオースの影響 樽松愛理・○齋藤明広(静岡理工科大学理工学部物質生命科学科)
P-34	茶草場農法が茶園土壌の微生物に及ぼす影響 園田咲 ¹ ・○鮫島玲子 ¹ ・浅井辰夫 ¹ ・高橋冬実 ² ・小杉徹 ² (¹ 静岡大学、 ² 静岡県)
P-35	アーバスキュラー菌根菌接種資材の作物根への定着に関わる生態的要因 ○丹羽理恵子 ¹ ・丸山隼人 ² ・佐藤修正 ^{3,4} ・平川英樹 ⁴ ・吉田重信 ¹ ・江沢辰広 ² (¹ 農環研、 ² 北大院農、 ³ 東北大院生命科学、 ⁴ かずさ DNA 研)
P-36	二つの星が生かし合って ○園山国光(鹿児島県有機農業協会(NPO))
P-37	東海地方における海岸クロマツの <i>Cenococcum geophilum</i> 菌根内に生息する分離可能な放線菌の分布様式 ○畠田翔輝 ¹ ・愛須加菜 ² ・今神広紀 ² ・松田陽介 ¹ (¹ 三重大院生資、 ² 三重大生資)
P-38	バイオ肥料 <i>Bacillus pumilus</i> TUAT-1 株を接種したコンヒカリ苗の本田での効果的な肥培管理技術の探索 ○長尾陽一郎・細野真弘・大津直子・本林 隆・横山 正(東京農工大学)

※ポスターは 120(タテ)×90(ヨコ) cm 以内で作成して下さい。

※掲示に必要な画鋏等は会場に準備します。

日本土壌微生物学会 2016 年度大会 会場へのアクセス



岐阜大学までのおおよその時間

- ・ JR/名鉄名古屋駅から： JR/名鉄岐阜駅まで電車で約 20～30 分です。JR/名鉄岐阜駅から岐阜大学までは 7 km ほどございますので、お越しの際は、タクシーまたは岐阜バスをご利用ください。タクシーで約 20 分（約 2500 円）、岐阜バスで約 30～35 分（320 円）です。なお、所要時間は交通状況により変動します。バスに関しては下記の情報をご参考ください。
- ・ 中部国際空港から： 中部国際空港から名鉄岐阜駅まで名鉄線の電車で約 1 時間 5 分～1 時間 30 分です。名鉄岐阜駅から岐阜大学までは上記のとおり、タクシーまたはバスをご利用ください。
- ・ 名古屋空港から： 名古屋空港から名古屋駅まではバスで約 30 分です。名古屋駅から岐阜駅までは電車を、岐阜駅からは岐阜大学まではタクシーまたはバスをご利用ください。

バスの系統および所要時間

JR/名鉄岐阜駅からは C70 (岐阜大学・病院線) または N45 (岐南町線) の 2 系統のいずれかのバスでお越しください (岐阜大学で下車)。所要時間は系統 C70 で約 30 分、系統 N45 で約 35 分です (交通状況により変動します)。

- ・ バス系統 C70： JR 岐阜駅北口 (9 番のりば) ～名鉄岐阜駅 (5 番のりば) ～ (忠節経由) ～岐阜大学
- ・ バス系統 N45： JR 岐阜駅北口 (9 番のりば) ～名鉄岐阜駅 (4 番のりば) ～ (長良橋経由) ～岐阜大学

※バスの路線図や発着時刻等の詳細は岐阜バスのホームページ (<http://www.gifubus.co.jp/>) をご覧ください。